

## 【中学校 第2学年】

平均正答率 (%)

教科	目標値	香取市平均	全国平均
国語	62.5	62.1	64.4
社会	55.3	54.2	55.7
数学	59.0	56.4	59.4
理科	55.7	55.7	55.9
英語	59.9	58.9	62.1

目標値…学習指導要領の内容を平均的な配当時間で指導した場合に、生徒が正答できることを期待した割合を示したもの。

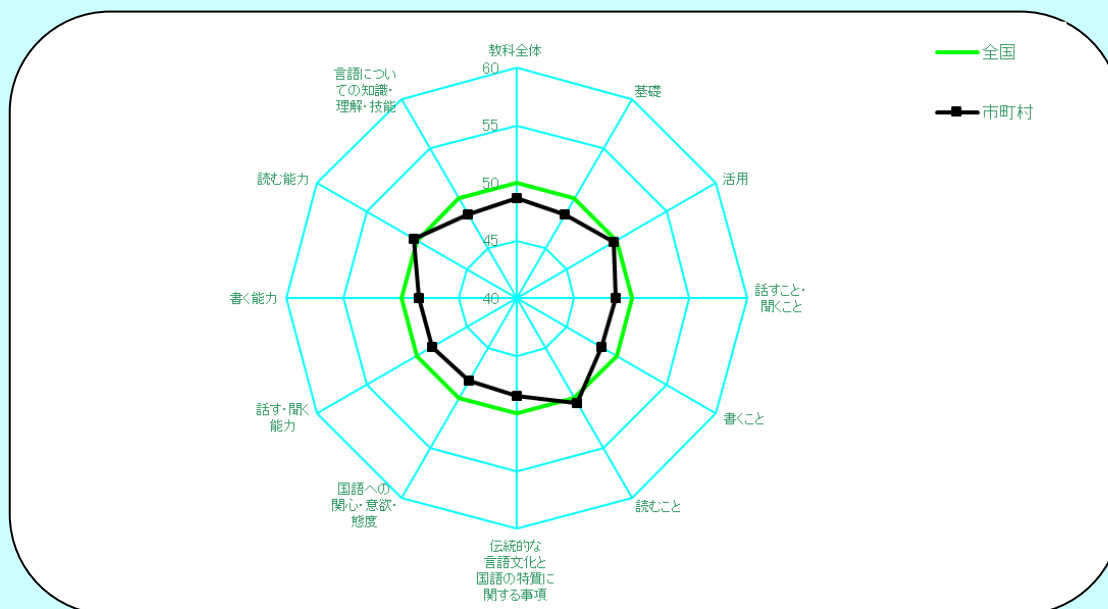
### 【全体的な傾向】

教科別に市平均正答率と全国平均正答率（以下、全国平均）を比較すると、理科は全国平均とほぼ同程度ではあるが、他のすべての教科において全国平均を下回る結果となった。

### 中学校の教科ごとの傾向

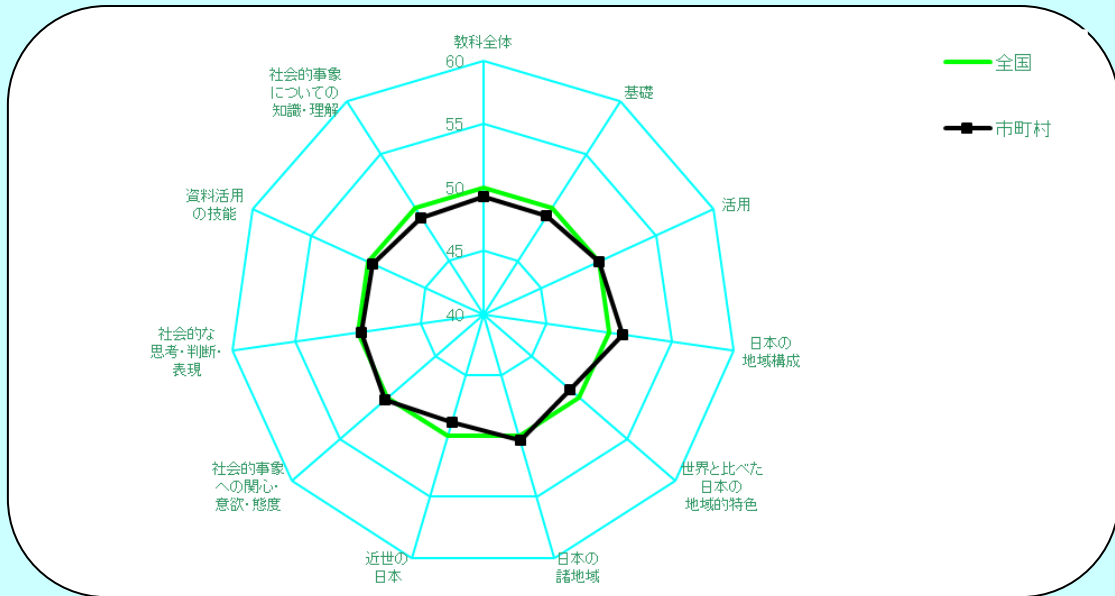
#### 【国語】

※グラフは全国平均を50として、香取市の平均正答率を相対的に表したものです。



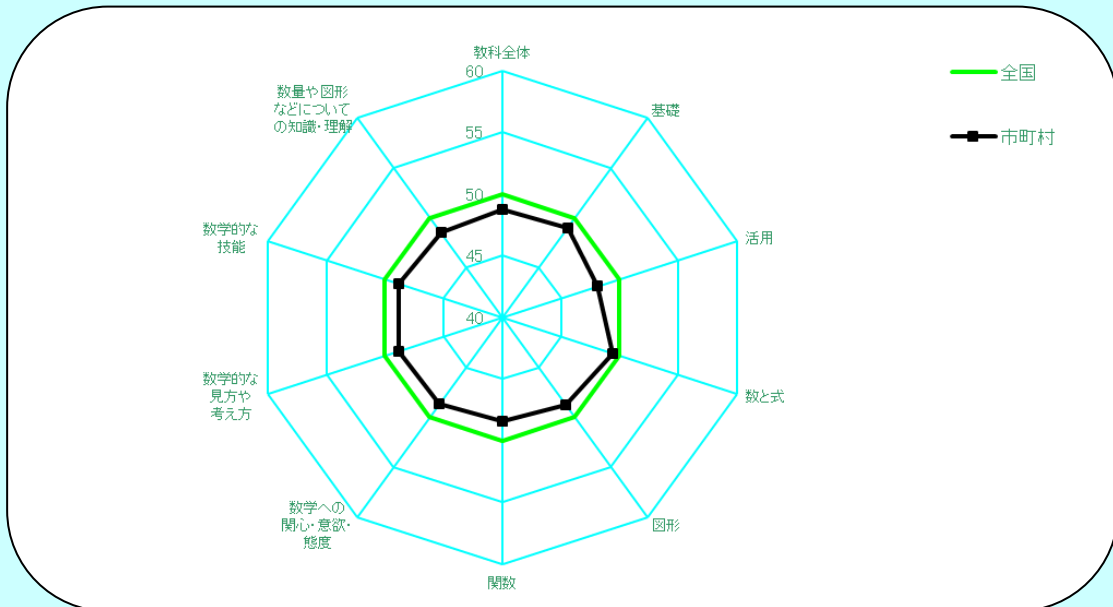
全国平均と比較すると、「基礎」は下回り、「活用」はほぼ同程度の結果となった。昨年度に続き「読む能力」は全国平均を上回り、改善傾向が見られる。他の観点も全国平均を下回り、特に「書く能力」に課題が見られた。「文字数を指定して書くこと」や「段落構成を指定して書くこと」など、指定された条件のもと書く活動に日頃から取り組む必要がある。

## 【社会】



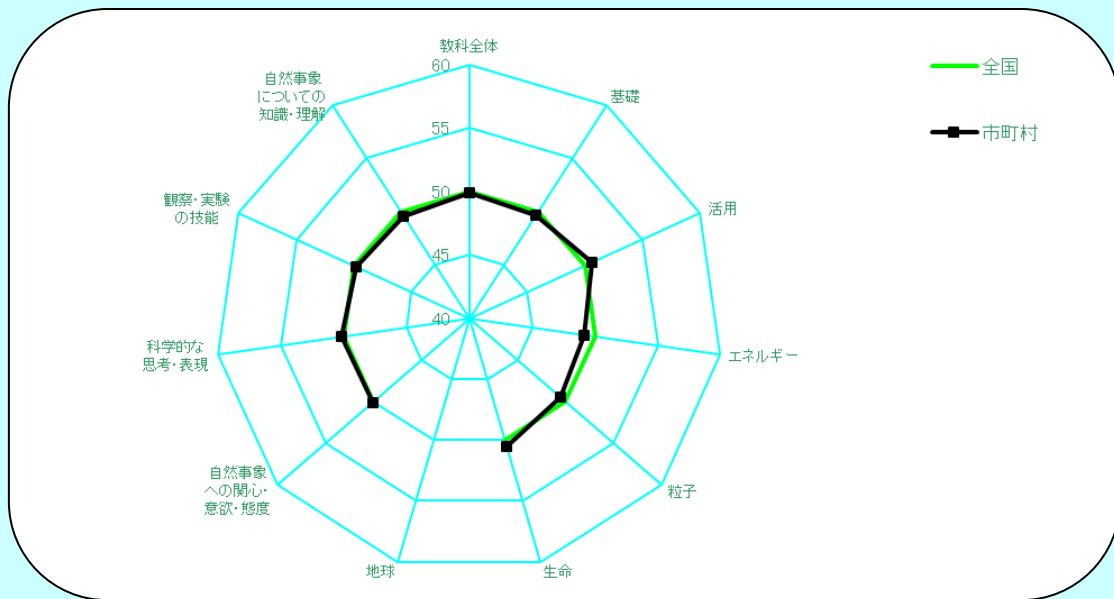
全国平均と比較すると、「活用」は同程度だが「基礎」が下回る結果となった。「地理」に関する問題では、日本の地域構成に関する問題の正答率は高かったが、世界と比べた日本の地域的特色（人口や食料自給率など）に関する問題に課題が見られた。また、「歴史」に関する問題は全体的に課題が見られるので、各時代における出来事（政治や文化など）について名称だけでなく背景も含めて理解し、定着を図る必要がある。

## 【数学】



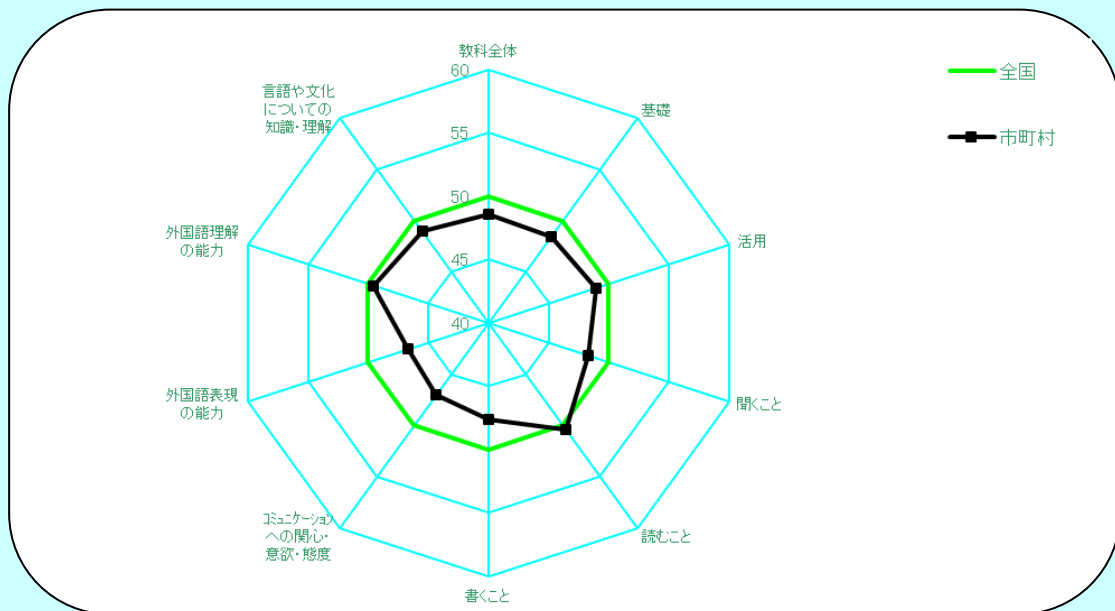
「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果となった。特に活用は継続して課題とされている。領域では「数と式」が全国平均の同程度だが、「図形」「関数」において課題が見られる。特に、1次関数のグラフをかく問題やグラフの読み取りに関する問題の正答率が低く、改善が求められる。また、解答形式が記述である問題の正答率が低く、自らの考えを適切に表現する力の向上が必要である。

【理科】



「基礎」「活用」ともに全国平均と同程度の結果となった。他の観点も全国平均と同程度であり、「生物と細胞」や「動物の分類と生物の進化」など「生命」領域に関する問題の正答率が高い傾向が見られた。「エネルギー」領域である「電気の性質」に関する問題に課題が見られた。実験を通して、電流や電圧、抵抗についてそれぞれの規則性について生徒が見出すことができるよう、結果について思考する機会を十分に設ける必要がある。

【英語】



「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果となった。「読むこと」は全国平均をやや上回った。会話文やメール文など、様々な形式で書かれた英文を読み取る力において成果が見られた。「聞くこと」「書くこと」に関する問題に課題が見られ、特に英作文を書く問題の正答率が低い。「3文以上の英語で書く」や、「指示された言葉で書き出す」など、指定された条件のもと英作文を書く活動に日頃から取り組む必要がある。